

各団体等の活動状況

資料 4

団体名	代表者氏名	活動状況
茅ヶ崎市福祉部福祉政策課	オオカワ トシユキ 大川 寿之	4月より福祉政策課内に総合相談担当を設置し、地区担当制を引いた相談対応を開始しました。各地区の担当職員は、市社協の職員とともに地区社会福祉協議会の運営する地区ボランティアセンターや民生委員・児童委員協議会の会議に出席し、地域の日常生活課題の解決に向けた取り組みを住民とともに考える活動をしています。
一般社団法人 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会	ヒラモト タツヤ 平本 哲也	主任介護支援専門員が主体となり活動を進めており、新人も20年以上活躍するベテランも、研修や情報共有が図れるように取り組んでいます。コロナ禍でも、研修を主催し学びも続けています。茅ヶ崎医師会、茅ヶ崎歯科医師会、茅ヶ崎寒川薬剤師会、茅ヶ崎市、茅ヶ崎市保健所、民生児童委員連合会等多くの団体と協働し、地域で生活される方の支援に取り組んでいます。昨年度は、災害時避難重点地区の中島地区の方に市のモデルケースに合わせ、ケアプランを考える活動なども実施しました。現在茅ヶ崎、寒川地区の当会部会員は約150名程となっています。
茅ヶ崎市介護予防ボランティア	カンノ キョウコ 菅野 京子	茅ヶ崎市介護予防ボランティアとして活動しています。主に65歳以上の方を対象に行っている「転倒予防教室」、65歳以上の方で長時間の運動が困難な方が月2回懐かしい童謡を歌いながら有酸素運動を行う「歌体操」、65歳以上の方が年2回フレイル予防について学び、現在の健康状態を知ること、今後の介護予防に役立てる「フレイルチェック」などの事業のボランティア活動を行っています。 2020年3月よりコロナ禍で活動が全て中止になっていましたが、今年度は、「転倒予防教室」は、いくつかの会場で活動が始まりました。「公園体操」は、4～6名のボランティアで毎月開催。野外のため間隔をあげ、感染予防しています。「歌体操」は、市内19会場で月2回開催。「フレイルチェック」は、年8回開催予定です。全てのチェックはできませんが、フレイルにならないための講座や介護予防体操等を行っています。その他に学びの講座の依頼で参加。市内の公民館等の体操教室、お寺マルシェ等依頼があります。 しかし、コロナ禍で活動するボランティアが固定化され、参加人数が減少してきました。今後の課題は、ボランティアの養成です。
社会福祉法人 茅ヶ崎市社会福祉協議会	ウミノ マコト 海野 誠	社協では、多様な福祉ニーズに応えるため、各種の福祉相談事業を展開するほか、高齢者や障がい者、子育て中の親子が気軽に集える「ミニデイ・サロン活動」を地域住民と協力して進めたり、ボランティア活動や、地区活動の支援、各種講座の開催など、地域福祉の推進に取り組んでいます。 【課題】 ・ボランティア育成の講座である、「ボランティア大学」はこの2年間、中止、動画配信と対面での実施が出来ませんでしたが、本年度は対面で実施し50名弱の方が7回の講座を受講されました。その後、ボランティア団体への参加や地区ボランティアセンターに登録された方も見られました。 ・学校、地域、企業からの依頼によって実施する福祉教育(出前講座)についても、昨年度は依頼自体が少ない状況でしたが、徐々に増加しており社会全体の活動意欲が高まってきていると感じています。 ・上記に限らず、徐々に研修会やイベント等を開催できるようになってきています。
公益社団法人 茅ヶ崎市シルバー人材センター	オザワ シンイチ 小澤 伸一	当センターでは、社会参加の意欲のある健康な高齢者のために、就業等の活動機会を提供することで、生きがいの充実及び福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を活かした活力ある地域づくりに寄与することを目的とし、事業を実施しています。健康寿命が延びる中で、高齢者が地域で働ける場や社会を支える活動ができる場の拡大のため、地域における高齢者の多様なニーズに応じた就業機会を確保することが当センターに求められています。 本年度は、当センターの令和4年度からの5か年計画である中期事業計画の初年度にあたり、現在、当計画に基づき事業に取り組んでいるところで。 当センターの社会参加活動としては、例年、主催の海岸清掃への参加やシルバーの日の中央公園北側歩道部分の清掃活動などを行ってきました。残念ながら、海岸清掃は、新型コロナウイルス蔓延の影響で3年続けて中止となりましたが、新型コロナウイルスの感染者数もようやく減少している状況ですので、当センターで独自に実施しております。中央公園北側歩道部分の清掃活動については、10月15日及び11月27日に2回実施する予定であります。 本協議体の取組を通じて、年々増加しております市内高齢者の生活支援について、皆様と課題を共有できればと考えております。
茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会	タジマ カズノリ 田島 一紀	ささえあい推進員やボランティアセンターと連携し取り組んでいます。毎月ネットワーク会議に参加し、地域課題の共有、解決に向けた話し合いを行っています。
茅ヶ崎市地区社会福祉協議会連絡協議会	サカイ シュウイチ 坂井 修一	地区社協は、町内会・自治会をはじめ、民生委員児童委員、学校、青少年育成関係団体、ボランティアなど、そこに暮らす住民と地区内の関係団体等から構成される任意の地域組織です。同じ地区に暮らす住民同士が身近な困りごとを共有し、その解決に向けた活動をすすめるという地域の福祉活動の中核的な存在となっています。 【課題】 ・市内13地区にある地区社協では、高齢者・子育てサロン（居場所の提供）や敬老事業などのイベントは規模を縮小したり、午前午後に分けて実施したり工夫しながら実施しています。しかし、以前のような開催方法で実施できないため、スタッフに負担がかかっている状況です。 ・事業が2年あまり実施できなかったため、今後事業を実施する中で、初めて事業に参加するスタッフが多くなっていくことが予想され、事業の継承が今後の課題となるのではないかと感じています。
茅ヶ崎市地区ボランティアセンター連絡会	アリモト ヨシコ 有元 佳子	湘北地区では、社協活動の分科会6個を運営しています。 ・「セカンドライフを楽しむ会」では、住民への募集15～18名、実行委員13名で30名近くの高齢者が近くの公園まで歩き、体操、認知症予防の話、ゲーム、レクリエーション等楽しみながら健康と幸せの活動をしています。大変好評です。 ・「地域福祉を考える懇談会」で、サロン主催者にZOOMで集まって話し合い、又、障がい者福祉団体との懇談会も予定しています。 ・ボランティアセンターでは、生活支援など様々な活動を実施。7、8月の暑い時期はお休みして9月より大忙しです。コーディネーター配置事業による福祉何でも相談、ネットワーク会議は毎月行っています。地域の保健室、コミュニティサロン、麻雀等の自由広場、様々な活動を行っています。
茅ヶ崎ボランティア連絡会	タザワ タケオ 田澤 健夫	茅ヶ崎ボランティア連絡会は、茅ヶ崎で活動する社会福祉関係のボランティアグループ13団体（介護関係ボランティア（4）、視覚障がい関係ボランティア（4）、聴覚障がい関係ボランティア（4）、その他の関係ボランティア（1））で構成されています。 ボランティア連絡会の活動は、ボランティア大学の開催、ホームページの運営、ボランティアまつり福祉バザーの開催、広報誌「ボランティアだより」の発行、パネル展の開催、研修会の実施等です。 最近では、一昨年中止、昨年はYouTubeで開催したボランティア大学を、今年は3年ぶりに市社協と協力し、5月に文化会館4階大会議室で開催しました。47名の方が受講された。受講生のうち33名が選択コースに進み、その中の21名の方が各グループの新規会員になり活躍が期待されています。 今後の予定は、11月7日（月）から一週間イオン茅ヶ崎中央店でパネル展（各グループの活動等を記載したパネルとPRを兼ねて展示）を行います。その後、23日（水）に感染対策を十分行っのボランティアまつり福祉バザーを文化会館1階で行い、地域住民との交流を図る予定です。 尚、ボランティア連絡会を構成しているボランティアグループでは、コロナ禍で暫く休んでいた地域及び学校関係の福祉体験学習も今年度から各グループが受け始めています。
茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会	タカヤマ カズシゲ 高山 和茂	茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会は、市内13地区それぞれのまちぢから協議会の連絡調整や情報交換、行政等からの依頼事項の周知・協力などを目的として、組織されている団体です。委員は、各地区の会長、副会長26名で組織しています。 各地区のまちぢから協議会は、自治会を基盤に社協や青少年団体、民生委員など地域のさまざまな分野の団体の方々や地域住民の方方で地域づくりを行う団体です。市内の全地区の多くの団体や住民が間接的にも参加していることから、市民の代表として、いろいろな分野の審議会の委員を依頼されています。 生活支援対象者（生活困窮者）のことも地域の重要な課題です。専門的なかわりを持っている方々の意見をお聞きしたり、地域の実情をお話することによって地域づくりに活かして行けたらと思っています。
茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会	スミカワ アツシ 澄川 篤	民生委員・児童委員協議会の活動は、コロナ禍の影響を強く受けました。主に私たちがお相手する方は、比較的年寄りが多く、コロナをうつしてはなりませんので、家庭を訪問するなどの対面での活動は自粛していました。 【課題】 地域の福祉活動は、ミニデイサロン等、正常な活動がほとんどできなかったために、共に活動する賛同者を育てることができず、三年間のブランクで後継者不足に悩んでいる現状です。 毎年できていたことを3年間中止した結果、地域福祉活動や自治会活動など今後の困難が予想されます。
茅ヶ崎市老人クラブ連合会	ツルタ クニオ 鶴田 國夫	・毎年行っている市内老人クラブ会長が参集する定例会を6月より再開し、情報交換等を実施し始めました。 ・6月16日に社会奉仕活動の一環として市民文化会館の花壇に植栽を行いました。 ・9月9日に茅老連主催のグラウンド・ゴルフ大会を円蔵スポーツ広場で開催しました。 ・10月12日に老人クラブ大会を老人福祉センターで催し、式典を行いました。 ≪予定≫ ・11月5日（予備日12日）に第一カッターきいろ公園（中央公園）で、大運動会を開催を予定しています。
特定非営利活動法人NPOサポートちがさき	コヤマ シンイチロウ 小山 紳一郎	本年度は、法人自主事業として、2022年8月20日（土）午後、市福祉政策課の白井さんをゲスト・スピーカーにお招きして、SDGsネットワーク事業「みんなで創る共生社会」をサボセンで開催しました。当日は、白井さんから重層的支援体制整備事業について学ぶとともに、グループワーク形式で「困難事例」に関する事例検討を行いました。また、ちがさき市民活動サポートセンター指定管理事業では、9月10日（土）午後第4回SDGsカフェ「誰もが生き生きと暮らせる地域を創る」を開催。関根さん（同志社大学客員教授）と荒井さん（サンカクシャ代表理事）をゲスト・スピーカーにお招きし、ユニバーサルデザインの考え方と実践例について話を伺いました。